

2014年度 広域ヨーロッパ研究センター活動報告

1. 講演会・研究会・ワークショップの開催

共通テーマ： 広域ヨーロッパ研究における比較と関係

2014年5月7日

柳原伸洋（東海大学文学部講師）

ドイツと日本、そして静岡の空襲とその記憶

2014年7月16日

ギョーン・クット（ボアジチ大学国際関係学部）

Turkey's Foreign Policy under the Crisis of Ukraine and Syria

2014年11月10日

ローラン・ジェニー（ジュネーヴ大学名誉教授）

写真がもたらす3つの時間

2014年11月18日

ティム・ゴイトケ（ブレーメン経済工科大学教授）

Free Trade: What Japan could learn from the European experience

2014年12月16日

ジョン・J・ミアシャイマー（シカゴ大学教授）

中国の擡頭と大国間政治の悲劇

2014年12月18日

伊東剛史（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）

19世紀ロンドンの動物たち

2015年1月8日

木村護郎クリストフ（上智大学外国語学部ドイツ語学科教授）

ことばを創る—復興言語コーンウォール語と計画言語エスペ란ートの事例から

2015年1月21日

ヴィオレル・イスティチオアイア（欧州連合特命全権大使）

EUとアジア太平洋地域

2015年1月21日

末澤恵美（平成国際大学准教授）

ウクライナ危機の背景

2015年1月26日

オリガ・リホトレバ（モスクワ国立国際関係大学）
ロシアの文化と生活様式

2. WERC 公式ウェブサイト (<http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp>) の運営

研究員の研究発表や外部講師の特別講義の通知を掲載した。

3. 「広域ヨーロッパ論」共通テキスト

研究会を介して準備中（項目 4, 5, 7）

4. 教育関連資料の提供

12月2日に、WERC 研究員の担当するゼミからも参加し、「合同ゼミ学生発表会 2014」を開催した。

5. 「内なる国際化」および協定校との学術交流の推進

上記4の「合同ゼミ発表会 2014」に、協定校のボアジチ大学（トルコ）から来ている留学生2名も参加し、日本語での発表「日本のサムライとトルコのイエニチェリの相違点と類似点について (Differences and Similarities between the Samurai and the Janissaries.)」が行われ、日本人学生との活発な質疑応答が繰り広げられた。また、佐藤真千子研究員の演習で彼らの発表内容について日本人学生と討論するなど、留学生との共同学習が実施された。

さらに、上記1のギン・クット氏（ボアジチ大学）による特別講義とは別に、国際関係学研究科と国際関係学部の学生を交えた懇談会が設けられ、トルコの歴史、民族、安全保障など多岐にわたるトピックについて、英語での自由討論が行われた。

ボアジチ大学と本学の交換留学・学術交流の拡大及びサポート体制の充実化を図るために、派遣・受け入れ人数の増加と留学生活の安全サポート、トルコ政府による国際交流助成金への申請準備、学術交流協定10周年（2016年）に向けた企画準備等について、佐藤研究員とボアジチ大学教員の間で協議が進められた。学術交流協定10周年記念事業は広域ヨーロッパ研究センターとボアジチ大学国際関係学部による共催で実施される予定である。

モスクワ国際関係大学（MGIMO）から来ていた留学生が、WERC 研究員が担当する国際関係史、国際政治経済特殊講義区、その他の授業において、国際関係学部および国際関係学研究科の学生と討論する機会をもつなど、学習を通じた交流が行われた。また宮崎晋生研究員がMGIMOに派遣された。現地での産学連携製造業イノベーション拠点 Fablab@77 MISIS(モスクワ国立工科大学)や Fablab@Lyceum 等への訪問・ヒアリングを行った。ロシア経済が苦境にある中で、インターネットや3Dプリンタ技術などを用いた製造業の技術革新で打開する方策について、いくつか知見が得られた。さらに「日本の経営経済と文化」についてMGIMOにて数回講義を行い、日本での企業経営者への敬意や働き方・倫理と日本文化との関係について、学生や教員との活発な議論が行われた。

6. ブリュッセル自由大学 (ULB) との学術協力活動

2015年3月に小窪千早研究員がULBを往訪し、ULBのIEE(ヨーロッパ研究所)のマリオ・テロ名誉所長、ウェイエンベルグ所長、ポンジャエール研究員と意見交換を行い、今後の協力について意見交換を行った。同じくULBのFSP(社会科学・政治学部)の国際交流担当のユードリー教授とも意見交換を行った。2016年には両大学間の協定が最初の更新を迎えることにも鑑み、いずれもまずは教員間の学術交流をより緊密に進めることで意見の一致を見た。

7. WERC 研究会

第1回(5月7日)、六鹿茂夫研究員「ウクライナをめぐる国際政治」

第2回(1月27日)上野雄史研究員(経営情報学部、WERC客員研究員)

「EUの国際標準化戦略とその規制力～企業会計と金融規制を中心に～」

8. US フォーラム 2014 ハイライト発表

2014年9月25日

上野雄史客員研究員「知っているようで知らないヨーロッパの捉え方」

US フォーラム 2014 海外研修報告

2014年9月26日

米山優子研究員「スコットランドとマン島における地域言語による初等教育の現状」